

自信持ち能力生かして

あまきま県民性

あねこれ

▷4◁

細かさを数値化して測定。気付き、好きな道を進んで12月までの1次審査を約70人が通過し、3月の2次、3次審査を経て世代別の優勝者を選ぶ予定だ。

★ ★

ただ男性と対等に渡り合うのが当然という米国の社にも身を置いた野澤社長は、秋田の女性に物足りなさを感じる。

さまざまな能力を持ちながら、集団行動を重視して突出を嫌うように見えると。「もっと自分の能力に

気付き、好きな道を進んでいけばいいのに」

肌美人コンテストの優勝者は、報道陣を集めて大々的に発表したいと考えているが、心配していることがある。「夫に内緒で応募した」と話した女性もいる。選ばれた人が、会見に応じしてくれるかどうか……」

「おらが秋田は美人の出どころ。お米にお酒、秋田杉」――。秋田空港からのリムジンバスでは、こんな車内アナウンスが流れる。

全国的に知られる「秋田美人」。化粧品大手・ポーラ(東京都)が03年までの4年間に実施した、全国の20歳39歳の女性約80万人を対象とした調査では、シミの原因となる皮膚のメラニン量は秋田県の女性が最少で、秋田女性の肌の美しさは科学的にも証明された。日本海側の県ほど上位で、年間の日照時間の少なさが要因ともされている。

★ ★

「約20年前、友人を訪ねて秋田駅に降り立つと、色白の女性ばかり。日本人ではないようだった」

化粧品への効用や安

全性を調べる「クリニカル試験」を手がける「インタールフェイス」(秋田市)の社長、野澤一美さん(44)は振り返る。

埼玉県出身。東京での不動産金融会社勤務を経て渡米した。クリニカル試験の企業に勤務し、コンサルタントとして独立。かつての「秋田美人」の印象を忘れられず、06年に秋田で起業した。

秋田の女性の肌の写真を取引先の化粧品会社に送ると、その美しさに驚かれることが多いという。

同社は08年、「秋田の肌美人コンテスト」を実施。といっても、審査員が容姿で選ぶのではない。応募した県内の女性について、技術を駆使して肌の明るさや弾力、潤いやきめ



肌を調べる試験―秋田市新屋町砂奴奇の県工業技術センターで

美肌、証明されたが…